

## 令和2年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署長賞

「今、生きていくという」と」

柏市立豊四季中学校 三年 大平 真愛

私には姉がいる。姉は小さい頃に大きな病気にかかっている。それは大きな病気の中でも重症だったらしく、笑いもしなければ泣きもしなかったという。ただただ無言でぐったりしている様子だったと、母は言った。今は元気で何の障害もない姉だが、当時の写真にはとても驚いた。疲れ果てたようにぐったりしており、腕には点滴がつなげられている。今の姉からは想像も出来ない姿だった。

大きな病気を治すには薬が必要だ。特に姉の病気を治すための薬は、とても高価なものだった。姉は毎日、薬である点滴を投与しなければ病気を治すことはできない。決して裕福とは言い難い私の家庭には、それが衝撃的な出来事だった。

そんな時、私達の家庭を救ったのが税金だ。毎日高価な薬を摂取するためには大金が必要である。税金によって、そのお金の一部が免除された。そのおかげで私達は救われたのだ。税金はこうやって私達の生活を支えてくれているのだ、と温かい気持ちになった。

現在、日本の病院では、二百万人以上もの人が病気で苦しんでいる。私は、本当に助かるのか、と思ってしまうほど重症な子ども達も見た。

「退院できることは、こんなにすごいことなんだ。」  
と、両親は口を揃えて言う。

税金は命を救う。そのことを私はこの一件で強く実感した。だからこそ、私達には税金を払う意味があるのだと思う。私はまだお金を稼ぐことができない。けれども、私が大人になって税金を払わなければならなくても、きっとこのことを忘れないだろう。税金の力を知った今は、税金を払うことにマイナスイメージはない。姉を救ったのは日本人全員だ。どこかの誰かが税金を払ってくれたから、姉は今日も生きることが出来る。私が払う税金で、今日もどこかの誰かが生きているのだと思うと、嬉しきで胸がいっぱいになった。

けれども、全員が全員私のような体験をしている訳では無い。そうならば税金に不満をもつ人だっているのだろう。そんな人に私のこの作文を読んで、自分は人を救ったのだ、と実感して欲しい。大切なものにはいつも気付くことができない。だからこそ、気付いた人が発信する意味があるのだと思う。

一人はみんなのために。みんなは一人のために。私達が納める税金で、今日もどこかで誰かが救われる。